



静岡県内経済情勢

令和4年7月27日

財務省東海財務局

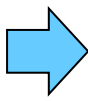
静岡財務事務所

1. 総論

静岡県内経済は、持ち直している。








先行きについては、感染対策に万全を期し、経済社会活動の正常化が進む中で、各種政策の効果もあって、景気が緩やかに回復していくことが期待される。ただし、ウクライナ情勢の長期化や中国における経済活動の抑制の影響などが懸念される中での原材料価格の上昇や供給面での制約に加え、金融資本市場の変動等による下振れリスクに十分注意する必要がある。

【総括判断】

前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較	総括判断の要点
新型コロナウイルス感染症や供給面での制約等の影響により一部に弱さがみられるものの、持ち直している。	持ち直している。		「個人消費」は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。「生産活動」は、一部で供給面での制約等の影響がみられるものの、全体では持ち直している。「雇用情勢」は、緩やかに持ち直しつつある。

(注) 令和4年7月判断は、前回4月判断以降、7月に入ってからからの足下の状況までを含めた期間で判断している。

【各項目の判断】

項目	前回（4年4月判断）	今回（4年7月判断）	前回比較
主要項目	個人消費	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。 
	生産活動	一部に弱さがみられるものの、持ち直している。	一部に弱さがみられるものの、持ち直している。 
	雇用情勢	感染症の影響がみられるなか、横ばいの状況にある。	緩やかに持ち直しつつある。 
その他の項目	設備投資	3年度は増加見込みとなっている。	4年度は増加見込みとなっている。 
	企業収益	3年度は増益見込みとなっている。	4年度は減益見込みとなっている。 
	住宅建設	新設住宅着工戸数でみると、前年を下回っている。	新設住宅着工戸数でみると、前年を下回っている。 
	公共事業	前払金保証請負金額でみると、前年を上回っている。	前払金保証請負金額でみると、前年を下回っている。 
	企業倒産	件数は前年を下回っている。	件数は前年を上回っている。 —

2. 各論

最近の静岡県内経済情勢における主要項目の動向は、以下のとおりとなっている。

【個人消費】— 一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。 —

スーパー販売は、緩やかな回復に向けた動きが続いている。

コンビニエンスストア販売は、入店客数が回復しつつあることから、緩やかに持ち直している。

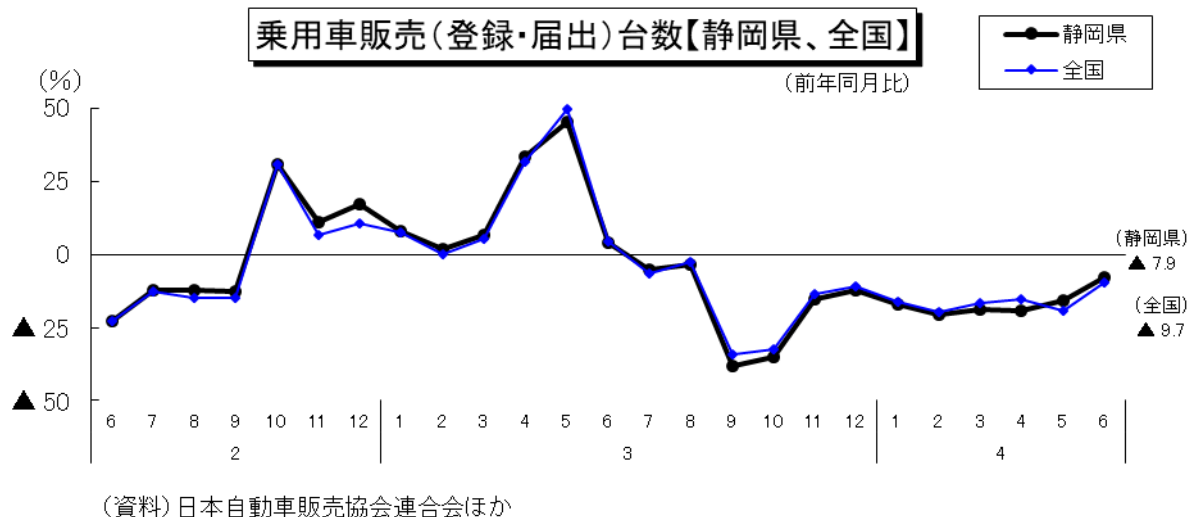
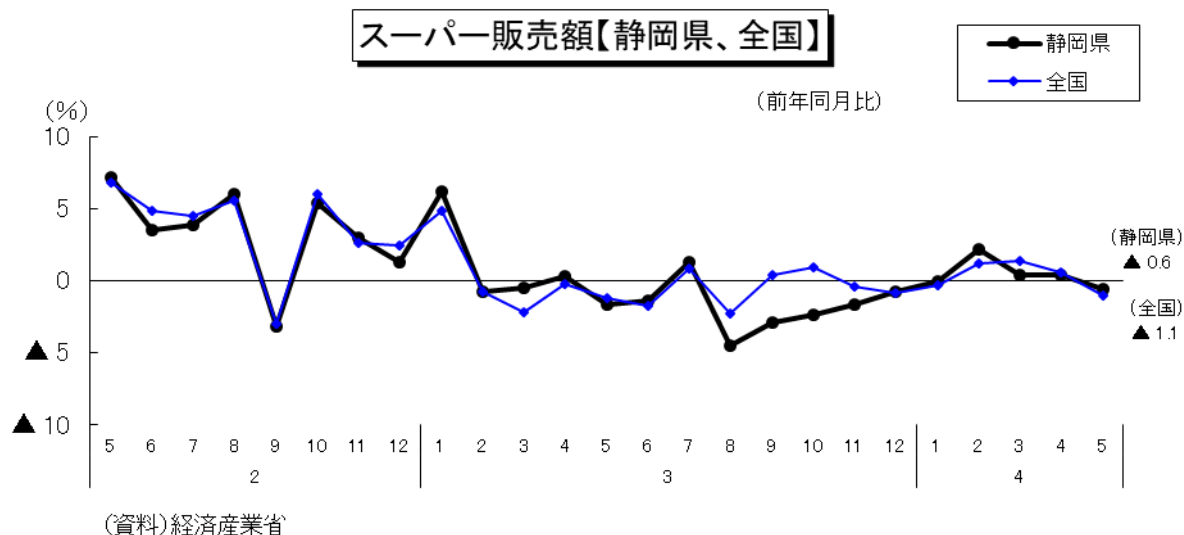
ドラッグストア販売は、新規出店効果に加え、飲食料品が好調に推移していることから、引き続き増加している。

百貨店販売は、回復しつつある。

家電大型専門店販売は、白物家電は堅調に推移しているものの、テレビや情報家電を中心に弱い動きとなっている。

乗用車販売は、供給面の影響により、弱含んでいる。

観光地への入込及び宿泊客数は、各種施策の効果等により、持ち直している。



【生産活動】— 一部に弱さがみられるものの、持ち直している。 —

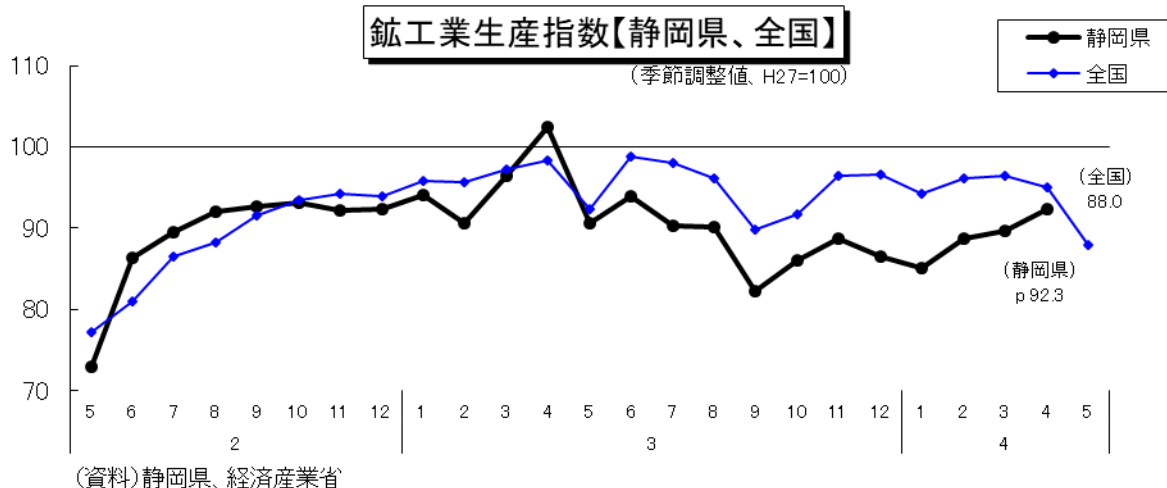
自動車関連では、四輪車は、一部で供給面での制約の影響がみられるものの、全体では緩やかな持ち直しの動きが続いている。オートバイは、供給面での制約の影響がみられるなか、輸出向けを中心に緩やかに回復しつつある。

電気機械では、エアコン、冷蔵庫はともに緩やかに回復している。

金属工作機械は、海外受注が増加していることなどから、持ち直している。

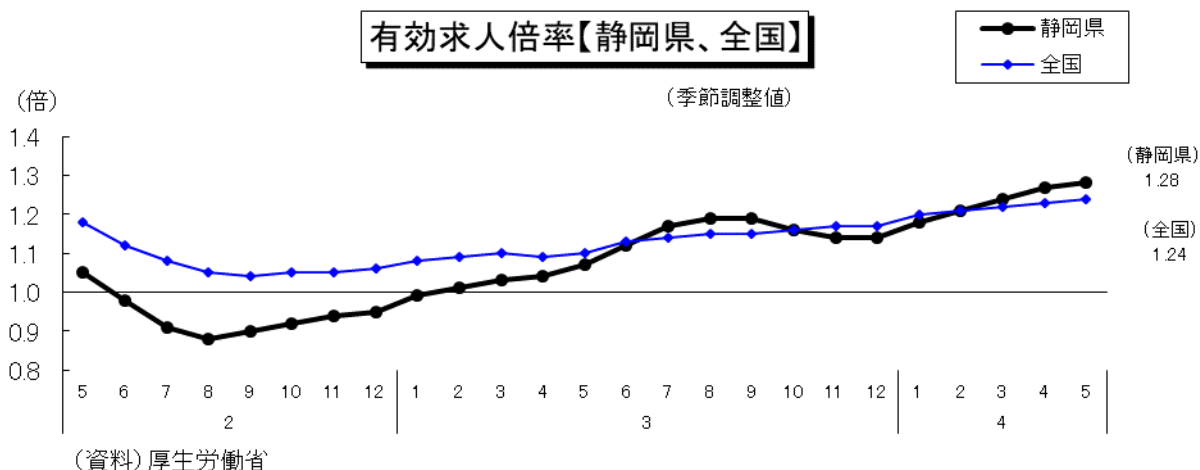
紙・板紙は、おおむね横ばいとなっている。

ピアノは、回復しつつある。



【雇用情勢】— 緩やかに持ち直しつつある。 —

有効求人数が増加したことから、有効求人倍率は上昇している。



3. 県内景気に関する地域の声

個人消費

- ・ 4月以降は、人流が徐々に回復していることから、都市部の店舗を中心に内食需要が落ち着いてきた一方で、観光地の店舗で売上が回復してきている。商品値上げの影響により、買上点数が減少しており、消費者の節約志向が強まっている。
(スーパー)
- ・ 大型連休以降は、対前年比で好調が続いた。足下では、新型コロナウイルスの感染再拡大で増勢鈍化の傾向があるものの、高額品などが比較的好調。
(百貨店)
- ・ 白物家電は、半導体不足を懸念した先食い需要により、4、5月が好調であり、6月は反動で一時的に鈍化したものの、月後半の気温上昇に伴い動きが出てきている。一方で、デジタル家電は、部品不足などの影響もあり不調だった。
(家電量販店)
- ・ 受注は堅調に推移しているが、納車の長期化が深刻で、顧客の一部が中古車に流れている。
(自動車販売)
- ・ まん延防止等重点措置の解除もあり、旅行客が戻ってきている。夏休み期間の予約は、良い状況とは聞いている。
(旅館組合)
- ・ 店舗でのイートインやテイクアウトのほか、スーパー等で販売もしている。まん延防止等重点措置の解除以降、中食需要は落ち着いたものの、外食需要が盛り返している。
(飲食店)

生産活動

- ・ 自動車メーカーの挽回生産により生産が回復に向かう期待があったものの、半導体不足の影響等により、受注が減少している。
(自動車部品メーカー)
- ・ 現状、半導体等の部品供給に懸念があるものの、徐々に緩和の方向に向かうのではないかとみている。このため、先行きの不透明感が残るものの、生産は持ち直していくものとみている。
(輸送機械メーカー)
- ・ 脱炭素の流れの中で、海外から発電設備向けや電気自動車向けの工作機械需要が増加している。
(工作機械メーカー)
- ・ 上海ロックダウンの影響により、一部部品が不足し、生産への影響が発生していた。しかし、ロックダウンが解除され、足下では供給不足が解消しフル生産に戻っている。先行きも、挽回生産のためフル生産を継続する予定。
(電気機械メーカー)

雇用情勢

- ・ エリア拡大による新規出店により、人手不足感が続いているほか、既存店舗においてもスタッフの確保に苦戦している。
(ドラッグストア)
- ・ 新規採用の応募はなく、中途採用は、競合他社との取り合いの中、人材を確保することができた。
(倉庫業)
- ・ 機械関係の人材確保が難しくなっている中、さらにIT分野等の電気関係はどの業種でも引き合いが強く、人材の確保が難しい。
(工作機械メーカー)
- ・ コロナ禍における先行き不透明感を背景に、新規採用の人数を絞っていたが、コロナ前の水準まで戻していく。また、人員が不足しているため、中途採用や派遣社員の正規社員への切替えを進めている。
(楽器メーカー)

1. 本調査結果に関する問い合わせは下記へお願いします。

財務省東海財務局 静岡財務事務所 財務課

TEL(054)251-4323 (ダイヤルイン)

2. 本調査結果の概要は下記ホームページでもご覧頂けます。

ホームページ= <https://lfb.mof.go.jp/tokai/sizuoka.htm>